

# 令和4年度病害虫発生予察情報 特殊報第1号

令和4年10月26日  
岩手県病害虫防除所

## クロゲハナアザミウマの初確認について

### 1 対象病害虫

- (1) 害虫名 : クロゲハナアザミウマ  
(2) 学名 : *Thrips nigropilosus* Uzel

### 2 発生の経緯

令和4年4月、県南部のきく栽培圃場において、アザミウマが原因と思われる被害が発生した。同年6月に、被害葉に寄生していたアザミウマを、岩手県病害虫防除所において顕鏡したところ、クロゲハナアザミウマであることが確認された。同様の被害は前年度もあり、上位葉まで加害され品質低下する事例も確認されている。

本種は、全国に生息しており、本県においても以前からきくにおける被害はあったと推測される。沖縄県等では、本種がきくの最重要害虫とされる。

### 3 形態

体長は雌成虫1.2～1.3mm、雄成虫0.9～1.0mm。体色は淡黄色、幼虫は黄白色。前胸と有翅胸節に褐色斑があり、まだら模様となるのが特徴(図1)。複眼後方刺毛や前胸の前縁角刺毛は目立たず、触覚は7節で、I節以外は褐色～黒色(図2)。



図1 クロゲハナアザミウマ雌成虫  
(前胸と有翅胸節のまだら模様が特徴)

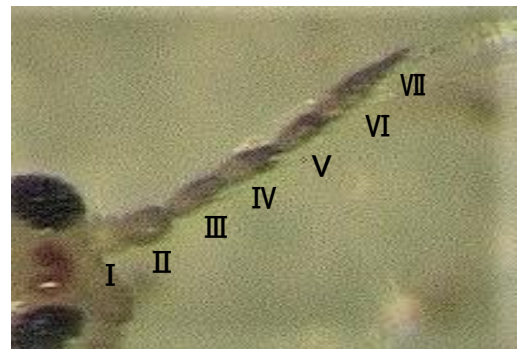


図2 クロゲハナアザミウマの触覚  
(I節以外は褐色～黒色)

### 4 生態と被害

本種は、きく以外では、レタス、ウリ科類、ナス科類など多様な作物を加害する。わが国における発生生態等は未解明だが、年3～4回の発生と推定される。卵は植物組織に産み込まれ、成虫・幼虫ともに、主に葉裏に生息し、老熟した幼虫の大半は土壌表面や落ち葉の中で蛹化する。卵から成虫までの発育期間は、25℃では約15日である。

きくの葉、花ともに食害し、かすれ状の小白斑を生じる(図3)。葉における被害は葉裏に多く、本県においては花での被害は認められていない。本種による病原体の媒介は確認されていない。



図3 きくの被害葉

## 5 防除対策

- (1) アザミウマ類に登録のある薬剤で防除は可能だが、葉裏に寄生していることが多いため、葉裏まで薬剤がかかるよう丁寧に散布すること。
- (2) クロゲハナアザミウマによるきくの葉の被害はハダニ類による「葉のかすれ」の被害と似ているため、加害種を確認のうえ、薬剤を選定すること。
- (3) 圃場周辺の雑草管理を徹底すること。

### 【利用上の注意】

本資料は、令和4年10月12日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- ・ 農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・ 農薬使用の際は（1）**使用基準の遵守**（2）**飛散防止**（3）**防除実績の記帳**を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

